

9:00	事務局 (企画課長)	定刻となりましたので、ただいまから、第3回南国市総合教育会議を開会いたします。それでは、平山市長よろしくお願いたします。
開会の挨拶	市長	<p>本日は南国市総合教育会議にご出席いただきまして誠にありがとうございます。本日の議題は、次第のとおり「南国市教育委員会の自己点検と評価」「令和2～4年度版 南国市教育振興基本計画」につきまして意見交換をさせていただくことになっております。</p> <p>なお、先月任期満了により退任された中村委員に代わり、今回から上岡哲朗様にご出席いただいております。どうぞよろしくお願いたします。また、野中委員は本日所用のため欠席するというご連絡が入っております。それでは早速議事に入らせていただきます。どうぞよろしくお願いたします。</p>
議事(1) 9:32	<p>市長</p> <p>教育長</p> <p>市長</p> <p>教育委員</p>	<p>まず(1)南国市教育委員会の自己点検・評価につきまして皆様からご報告をいただき協議したいと思います。それでは教育長よろしくお願いたします。</p> <p>【資料 令和元年度南国市教育委員会の自己点検・評価シート を基に説明】</p> <p>ご報告ありがとうございました。これにつきまして教育委員の皆様から補足のご意見等はございませんでしょうか。</p> <p>学校訪問について補足させていただきます。教育委員になって2年目になりますが、1年目は年度途中で教育委員に就任したため、分からないまま終わってしまいましたが、今年度、5・6月の学校訪問にも初めて行かせていただき、年度末まで初めて1年を通して見せていただいているところです。この学校訪問というのは教育委員として学校のことを知るとても貴重な時間になりますので、教育委員として大切にしていきたいと思っています。学校も忙しい中でわざわざ時間を作ってくださいますので、形式的で意味のないものにならないよう、今年は体制作りを見直してきました。</p> <p>全国で教育委員会や学校においてさまざまな不祥事が起こっておりまして、なぜ起こってしまうのかを考えたときに、縦の関係が強すぎたのではないかと、上からの圧力が現場に伝わっているのではないかと感じる場所があります。南国市は大丈夫だろうと思うのではなく、南国市にもそういう空気があるのではないだろうかと思分事として捉えていくことで、今後が大きく変わっていくのではないかと考えます。信頼でつながる横の関係性ができたらいいかと、現場で一生懸命頑張ってくださいしている先生方を全力で応援していけるような南国市の教育委員会でありたいと考えておりますので、学校訪問の中でそのあたりを現場にしっかりと伝えていきたいと思ひます。</p> <p>学校における働き方改革も推進していかなければなりません、残業や会議を減らすといった目に見えることだけを減らしても、先生方のストレスは、見えないところで逆に増えてしまわないか、仕事に向かう意欲がますます削がれていくのではないかと心配しています。私は、働き方改革の本来の目的は、先生方が子供と向き合う時間を作ることではないと思っています。一人一人の先生が自身のなりたい教師像を目指し、輝ける、本来の状態に戻してあげることが働き方改革の目的ではないでしょうか。先生方一人一人の状況を無視して一律に残業を止めさせたり、業務を削ったりすることが、全ての先生のためになるとは限らないと考えますし、自分のなりたい姿からどんどん離れていく状態が続くことで、先生の孤独を生み、それが生徒の子供たちに伝わってしまいます。そうすると、子供たちは「先生みたくになりたい」とは思えません。そこを教育委員として声を大に</p>

		<p>して言いたいです。「子供のため」という言葉で先生方をこれ以上苦しめずに、先生自身のために充実感を持っていきいきと働ける環境作りが出来たらいいなと思っています。その点も学校訪問で伝えていきたいです。</p> <p>別の話になりますが、白木谷小学校と奈路小学校の小規模小学校特認校制度について、制度を利用した方から切実な声をお聞きしたのでお話しします。制度を利用した児童は、「通常校区の学校に馴染めないため、特認校制度で別の学校に行く」という周りからの偏見を持たれ、間違った見方をされることがよくあると仰っていました。制度を利用した方はその学校で自分の子供を育てたい、通わせたいと「選ぶ」のですが、周りからは「どうして通常の学校に行かなかったの」と偏見の目で見られてつらい思いをされています。制度の周知などでお役に立てればとお話させていただきました。</p>
市長		<p>はい、ありがとうございました。いろいろ問題提起もしていただいたところですが、働き方改革は、一人一人が職場でのやりがい・達成感をどのような形で自己実現するのかというところはあると思いますが、仕事が忙しいのは現実で、それぞれの働き方がなかなかできないような状況があるということでしょうか。</p>
教育長		<p>そうですね。やらなければならないことが年々増えている中で、優先順位をつけられないものが結構あって、やめるのであれば全部やめてしまうなど思い切った方法も取らなくては、性善説だけではやっていけないところはあります。ただ、委員が言われたように、ライフワークバランスを考えることは、教員の意欲にもつながりますので、やっていかねばならないことであると考えています。</p>
市長		<p>人それぞれに価値観が違うところがありますので、一律に外の方に任せるなど極端な話になるのでは違うかなと思いますが、負担になっているところは軽減していける形をとる必要があると思います。</p>
教育長		<p>制度的に軽くしていかないといけないところと、精神的というか個々の教員の自覚というか、そういったところのバランスを取りながらやっていく必要がありますね。</p>
市長		<p>小規模小学校特認校制度の偏見ということでご意見をいただいております。募集や周知方法の問題ということだけでもないでしょうが、学校に馴染めない方が制度を利用するという偏見があるというご意見ですが…</p>
教育長		<p>学校に馴染めないというか保護者の選択ですので…自分の子供への教育を考えた時に、今の校区制は選択の余地がないわけですが、特認校制度では、親が自分の子供を見て、どういうふう育てていくのか、どんな教育環境が適しているのかを選んでもらえるわけですので、偏見で見られているとは思いませんでした。</p>
市長		<p>そういうことを言われることがあるのでしょうかね。</p>
教育長		<p>特認校制度のデメリットとして、住んでいる地域と離れてしまい、地域行事への参加や帰宅後・休みのときにどういった生活をするかという点でずれが出てくるのが考えられるかもしれません。そういう中で「なぜ違う学校に行っているの</p>

<p>議事(2) 9:48</p>	<p>市長</p>	<p>だろう」という疑問が出てきても不思議ではないと思います。</p> <p>人それぞれ思いは違いますので、全ての意見が出ないようにするのはなかなか難しい話ではあると思います。地域とのつながりというか、環境的なところもあるかと思いますが、地域の皆様に特認校制度について知っていただくことが必要ということでしょうかね。</p>
	<p>教育長</p>	<p>他に何かご意見はございませんでしょうか。ないようですので、次の議題「(2)令和2～4年度版 南国市教育振興基本計画について」に移りたいと思います。それでは、教育長よろしくをお願いします。</p>
	<p>市長</p>	<p>【資料 次期教育大綱の骨子(案) ※高知県資料 南国市教育振興基本計画(案) 令和2～4年度 を基に説明】</p> <p>基本計画の資料は「概要版」と「見え消し版」をいただいております、「六育」についての説明が盛り込まれているということでございます。教育委員の皆様から何かご意見等ございましたらお願いします。</p> <p>(意見出ず)</p> <p>これから「六育」を柱に教育施策を進めていくということです。もともと「五育」という言葉があったということでございますが、「五育」に「防(防育)」まで入れて「六育」として位置付けたということでございます。これについて何かご意見ございませんか。</p>
	<p>教育委員</p>	<p>私は「才育」に注目しています。「才育」という言葉を竹内教育長は教育長になられる前から使われていました。子育ての中で娘が興味関心を持ったことは、大人が見て意味のないようなことであっても潰さないように大切にしていきたい、やらせてあげたいと思っておりまして、竹内教育長は「それは才育やな」とおっしゃってくださったので、この言葉を大切にしています。</p> <p>教育委員になって、子供たちの姿や先生方・保護者といった子供を取り巻く大人の姿をたくさん見ていて危機感を感じていることが2つあります。それは「孤独の連鎖」と「コミュニケーション能力の低下」です。</p> <p>「孤独の連鎖」は、独りぼっちだと感じる以外に、未来への希望よりも今の不安が上回っている状態もあると思いますが、お母さんやお父さん、そして先生方の孤独が子供に感染してしまう、それが「孤独の連鎖」だと思っています。学校訪問で強く感じました。</p> <p>「コミュニケーション能力の低下」については、自己対話ができない、自分がどうありたいのかという明確なビジョンが描けない人が増えているのではないかと考えています。自己肯定感、自己有用感の低下が原因として挙げられると思いますが、自分がどうしたいのか決められない子供が多いと思います。自分の人生の主役は自分なのに自分のことが認められない、そうすると他者とのコミュニケーションが難しくなり、いじめや不登校、そして自殺といった問題に発展していくのではないかと考えています。</p> <p>偉そうなことを言っていますが、私もついこの間までこの2つの状態でした。教育長の教え子ということでご縁があってここに居させていただいておりますが、人前で意見を言うのも苦手で、大した学歴も教養もないので、教育行政に携わる</p>

		<p>といっても私は何もできないと当初は思っていました。皆さんが温かく見守ってくださったおかげで、マイナスの感情をプラスに変えることができましたが、自分もそういう状態でしたので、学校訪問に行くと、子供たちや先生方のつらい状況が見える、手に取るように分かる場所があって、これが私の特技だと思っています。南国市の子供たちのためにできることはないかと自分なりに勉強して、孤独とコミュニケーション能力の低下を根本からなくす具体的な方法を見つけました。この1月に「マザーズコーチングスクール認定講師 マザーズティーチャー」というコーチング講師の資格を大阪に行って取ってきました。教育の中にコーチングの視点を入れていくという全国でも注目されている取組です。「鏡の中の僕」というコーチングの絵本を使った、自分を大切にすることを育む授業で、これが「才育」の分野で私にできることだと、ぜひこの授業を自らやらせていただきたいと思い、今後、南国市教育委員会にご提案をさせていただき段取りになっています。この授業は文部科学省、経済産業省でも注目されていて、愛媛県では先進的な教育が始まっており、かなり好評だということです。高知県での有資格者は3人で、南国市は私だけです。「六育」の中の「才育」の土台となりますので、ぜひ私も、南国市のためにできることをこれからどんどんやっていきたい、積極的に関わらせていただきたいと思っています。</p>
市長		<p>教育委員会の中で、これから連携して取り組んでいただけるということですね。</p>
教育長		<p>話をしながら精査をしていくところです。</p>
市長		<p>孤独の連鎖とコミュニケーションについては現代社会の課題でもありますよね。昔の村社会ではなく、だんだんとまちの社会になってくると孤独が目立ってくるようなところがございますね。マザーズティーチャーという新しい取組を実践していただけるということで非常に有難く思いますし、楽しみにさせていただきます。またよろしくお願いします。</p>
教育委員		<p>はい、頑張ります。</p>
教育長		<p>少し話題は変わりますが、「才育」というのは、オリンピックに代表されるようなチャンピオンスポーツを目指すものも「才育」だと思いますが、特別支援教育にも通ずるものがあるって、どんな子供にもその良さがあり、そこをどう伸ばしていくかということもこれに通じているのではないかと考えています。</p>
市長		<p>皆が金太郎飴のように同じではなく個性がありますので、一人一人の個性を伸ばしていく形で、それぞれに合った教育を目指して、環境作りができれば、南国市の教育の特徴を評価していただけるのではないかなと思います。</p> <p>他に何かご意見ございませんか。</p>
教育委員		<p>「防育」について、先日は、市制施行60周年記念事業で防災フォーラムを開催していただき本当にありがとうございました。南国市の防災教育も事業指定を受けた学校が何校か増えまして、評価シートにも書きましたが、かなり進んできたと思います。防災フォーラムのように地域の防災に携わる方々と児童生徒が交流することは、地域を知る機会となり本当に大事だと思います。私も地元で消防団員をしておりますので、年に数回の避難訓練を実施しますが、お年寄りや「わし</p>

		<p>らのことはいいよ」「この年になったら命は惜しくない」とおっしゃる方が多く、消防団員がどれだけ声を掛けても避難してくれません。それがお孫さんや地域の子供に促されたら行動を起こします。計画の基本目標⑧に「地震や津波だけでなく、自然災害についても正しく理解し…」とありますが、南海トラフ地震以外に、最近では、豪雨災害やいろいろな災害があり、いつ発災するか予測が付きません。今の子供たちがお年寄りになったときに発災するかもしれませんので、防災フォーラムのような事業や学校行事の防災授業等で子供たちに確かな意識を学んでもらい、それを順々につなげていくことが一番大切だと思います。これからも防災に関していろいろとお力添えをよろしくお願ひします。</p>
市長		<p>南海トラフ地震もいつ来るか分かりませんが、豪雨災害などは今後少なくなることはなく、増える一方でしょうから、どのように避難するかなど検討すべきであると思います。</p>
教育委員		<p>中学生くらいの子供たちに防災に関する正確な知識をつけてもらって、リーダーとなる子を育成するのが一番いいのではないかと思います。</p>
市長		<p>先日の60周年記念の防災フォーラムでは、今後は幅広い人材がともに手を出し合う、年齢の幅広い連携が取れる、協力していくということで良かったと思います。岩沼市の防災避難訓練では、小学生・中学生が受付を務めることを地域でしっかり位置づけされていたので、そういった取組や未来を担う子供たちに正確な意識を持ってもらう教育は大切であると思いました。ありがとうございました。</p>
		<p>他にご意見はございませんか。</p>
教育委員		<p>中村は中高一貫校でしたが、これまでは、主に高校で勤めておりました。数年前に高校生の自己肯定感、自分には優れた力があると思っているかという調査がありまして、中国や韓国、アメリカなどの外国と比較した場合に、日本の高校生は自己肯定感が極端に低いという結果が出ました。平成の初めの頃から少しずつは上がってきてはいますが、外国と比較すると極端に低い結果です。そこで私は、高校生にその理由を聞いてみると、「物差しが小さい」という答えが返ってきました。要するに教員を含めた大人が、子供を評価する物差しが小さいのではないかと、例えば学力とかそういうふうなものが物差しになって、他の評価をする物差しがないのではないかとという答えが高校生から返ってきました。大人が子供を評価する物差しが小さくなるとやはり自己肯定感も低くならざるを得ないので、なるほどねと思いました。それから、集団討論する場で学力の二極化についてどう思うか聞いてみたところ、高校生なのでなかなか答えないは出ないかなと思っていましたが「厳しい教育をするときはきちんと支援する」「勉強と勉強以外のメリハリをきっちりつける」「学習集団の雰囲気作り」という答えがすぐに返ってきて、驚くとともになるほどと思いました。</p> <p>南国市教育委員会は、保幼小中なので高校生が答えるような問題だと望めないかもしれませんが、例えば中学校3年生だったら、こちらが困っていることを投げかけると何か答えが返ってくるかもしれません。我々が見る視点と違うところから答えてくれるかもしれない、保護者の答えとまた違うものが子供から返ってくるのではないかなと思います。もちろんそういう取組も十分になされているとは思いますが、実際に学校現場にいる子供たちは、大人が考えるよりなかなかすご</p>

<p>議事(3) 10:16</p>	<p>市長</p>	<p>いことを考えているのだなと思い直し、当時の私は、「できるだけ物差しを大きくしたい」「雰囲気をよくしよう」と生徒や教員に言ったことがあります。私も「才育」というものが非常に重要であると思っております、物差しを変えることで上手く取り組めるのではないかとか思ったりします。</p> <p>それから、コミュニケーション能力もとても大切です。先ほど特認校制度のお話もありましたが、地域のコミュニケーション能力が強すぎて外から入りづらいのではないかと思います。大きな学校に入るとあまりそういう問題は起きないけれど、地域のコミュニケーション能力が強く、中で通じる言葉が多すぎて、外の人にはどうしても難しいということがあると思います。私は幡多の出身ですが、幡多も地域に入るのがなかなか難しく、地域おこし協力隊は非常に苦勞されています。それも小規模学校ほどそういう壁が、入ってくる人を警戒するということがあるようで、それほど大きなまちのことではないのではないのかなと感じました。</p> <p>自分で自分を好きになることも大切で、教員もそれができればずいぶん楽になるのかなと思います。どうしても指導する、支援するという立場になってしまうと助けてもらうところがないところがあって、教員を助けるのは管理職になりますが、そうすると管理職はどこで助けてもらうのかなと、だんだん助けてもらえるところが少なくなります。そのときに、自分で自分を好きであればずいぶん変わるのかなと思います。今までの学校では、教員に、生徒に何でも話して欲しい、困ったことやそれに対してどういう対応をしたかということをお話して欲しいと伝えてきました。生徒から見たら教員は完全な人間に感じられ、初めから先生であったような思いもあるようですので、そうではなく、先生も中学生や高校生のときがあって、悩んだこともたくさんあって、そうしてどうやって教員になったのか、とにかく生徒にいろいろ話してくれと、生徒にとっては一番近い職業人ですので、失敗したことをたくさん言ってくれと伝えていました。今の生徒たちは学力検査があるのでどうしても答えを求める傾向にあります。ノートもとてもきれいに書き、間違ったことは書きたくない、正解を書きたい、そして消したくないようなところがありますので、間違っているのだということを生徒にたくさん話して欲しいと教員に伝えていました。</p> <p>物差しを広く持って、それぞれの個性を肯定するということですね。課題を子どもたちに投げかける、子どもたちからどういう反応がくるのかというのは一つの方法かもしれませんね。高校生が素直に返してくれる回答はとても勉強になります。非常に参考になりました。ありがとうございました。</p> <p>他に何かご意見はございますか。</p> <p>ないようですので、「議事(2)令和2～4年度版 南国市教育振興基本計画について」は終了させていただきます。</p> <p>本日ご説明いただいたことにより、教育委員会が重点的に取り組まれている内容がよく分かりました。今後も、南国市教育振興基本計画で示しておられる南国市の教育行政の課題やあるべき姿を共有して、より一層実りのある教育行政の推進を図ってまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いたします。</p> <p>それでは、最後に「(3)その他」となりますが、来年度の南国市総合教育会議の予定につきまして、事務局より説明をお願いします。</p>
	<p>事務局</p>	<p>令和2年度の南国市総合教育会議の開催日程でございますが、会議次第の下段を</p>

		<p>ご覧ください。来年度も、本年度と同様に3回の会議を予定しております。第1回は、令和2年4月22日(水)9時30分～10時30分に開催し、議事は、教育委員会の取組について、第2回は、令和2年10月20日(火)9時30分～10時30分、議事は、同じく教育委員会の取組について、そして、第3回は、令和3年2月18日(木)9時00分～10時30分、議事は、本日の会議と同じ、南国市教育委員会の自己点検・評価についてということで予定しております。なお、公務等の都合による日程変更や、協議する必要がある事案が生じた場合、臨時的に開催する場合がございますので、よろしくお願いいたします。</p>
	市長	事務局より説明がありましたが、来年度の開催予定についてご意見等はございませんでしょうか。
	教育委員	異議なし。
	市長	それでは、来年度はこの日程でよろしくお願いいたします。これで予定していました議案は、全て終了しましたが、その他に何かございませんでしょうか。
	教育委員	特になし。
10:18	市長	なければ、以上をもちまして、第3回南国市総合教育会議終了をさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。